

国語の読解問題を得意にする

読解問題を得意にするメリット

- 読解問題は国語の試験の①60%から90%の割合を占めます。
- 読解問題は②暗記が不要なので、一度「解き方」を身につけると③社会や理科のような暗記科目のように演習する必要がないです。
- 読解問題を得意にしておくと、算数、理科、社会の成績もあがります。
- 読解問題は④中学受験、高校受験、大学受験にも出てきます。いま得意にしておくと⑤大学受験までずっと安心です。
- 読解問題を得意にすると国語が面白くなり、読書量も増えて、知識がどんどんついてきます。

読解問題を得意にできる理由

- ⑥問題文の中に設問の答えやヒントが全部載っているから

⑦答えやヒントを探すテクニックを身につけましょう

問題文の中に設問の答えやヒントが載っている理由

理由は『⑧読解問題の作られ方』に大きく関係しています。

⑧読解問題の作られ方を理解しましょう

読解問題の作られ方



著者が問題を作っているのではない

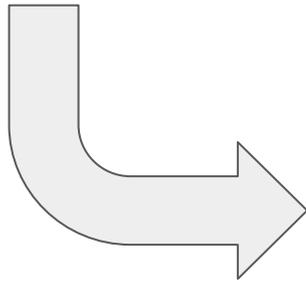


⑨会議室で複数の先生が作っている！

問題「著者の考えを述べよ」



問題文を作成するとき、⑩著者にインタビューはしていません



文章に書いてある内容から、複数の先生たちが『著者の考えは、この文章のこの部分で妥当ですよ？』と話し合っています。



⇒⑩著者にインタビューせず、複数人で作っているから、

読解問題の答えは『⑪問題文の中にあり、客観的に妥当なもの』に落ち着きます。

設問文の「条件」の作られ方

A先生「ここに著者の考えが出てますよね？」

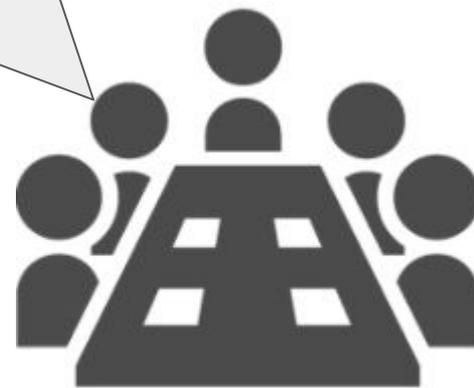
B先生「どれどれ・・・確かに、ここは『著者の考え』と言っていいと思います。」

C先生「でも、こちらの部分にも著者の考えが記載されていませんか？」

D先生「確かに、こちらも著者の考えが出てますね・・・」

A先生「では、『⑫著者の考えを第4段落から抜き出せ』という⑬条件を付けましょう。」

C先生「この⑬条件があるなら、A先生が指摘した部分が『⑭答えとして妥当』ですね。」



設問文の「条件」のメッセージ

設問文にある「四十一文字以内で答えよ」とか「『人口と自然』という言葉を使って説明せよ」という『条件』は、

生徒へ⑮面倒くさい意地悪をしているのではありません。

『⑯生徒にちゃんと答えまでたどり着いてほしい』という出題者のメッセージです。



⇒設問文の『条件』は非常に重要です。⑰答えへのヒントです。

まとめ：問題文の中に設問の答えやヒントが載っている理由

読解問題は、⑱文章の著者が作っているものではありません。

設問や答えについては、⑲複数の先生が話し合っ作っているため、⑳文章の内容からわかる、㉑客観的で妥当なものになります。

条件というものは、「㉒生徒にちゃんと答えにたどり着いてほしい」からこそつける、㉓出題者からのヒントです。

設問を正しく読むためのテクニック

設問を正しく読むためのテクニック その①

設問文を読む時、②④心の中で音読し、重要な2箇所^{②④}に線を引く

重要な2箇所

・「②⑤何を答えるべきなのか？」

・「②⑥条件はなんなのか？」

設問を正しく読むためのテクニック その②

「-----線①」といった傍線部分を解釈する設問文の時は、

傍線部分の以下の2つを○で囲む

・「②⑦主語」

・「②⑧述語」

まとめ：設問を正しく読むためのテクニック①と②

設問を正しく読むためのテクニック①と②は

出題者の『②ちゃんと答えまでたどり着いてほしい』というメッセージを把握するテクニックです。

読解問題の成績をあげる復習方法

成績をぐんぐん伸ばす復習方法

1. 間違えた問題の回答解説をよく読む
2. 間違えた問題について、間違えた原因について、自分なりに分析してメモする。(答案用紙の余白でいいです。例: **原因** 条件を見落としていた。考えすぎた等。)
3. 間違えた問題について、「次に間違えないようにするため」自分への注意喚起のコメントをメモする。(答案用紙の余白でいいです。例: **対策** ちゃんと条件を読んで線を引いておく!、主語・述語についてもっと意識する! 等)
4. 最後に設問文と問題文を、自分の出来る限りのスピードで頭の中で**速読**する。(読むスピードが劇的に上がります)

成績が上がる生徒の3つの特徴

1

2

3